asano-masatomi-kouen-kai-dayori

あさの正富後援会だより

号外

2023.9月 発行

あさの正富後援会事務所
〒323-0034
栃木県小山市神鳥谷1-6-19
TEL.0285-25-6577
FAX.0285-25-6627

この3年間で取り組んできたこと、これから取り組むべきこと

２０２０年7月３１日に小山市長に就任してから３年が経過しました。その間９割以上の期間はコロナ禍だったため、色々な行事やイベントに忙殺される本来の忙しさを体験し始めたのはごく最近のことです。

しかし、この３年間は、次から次へと様々な対応に迫られる濃密な３年間でした。感染防止対策、ワクチン接種、給付金はじめ各種支援策等のコロナ対応を最優先に取り組んだのは勿論、コロナによって開催の可否も含め影響を受けた国・県レベルの行事であったオリパラや国体も感染状況に翻弄させられながら何とか対応してきました。国が強力に普及を進めたマイナンバーカード関係では、市民が殺到した申請手続に対応するため臨時会場を設け、他の部署から応援の職員を送り込み、特別体制で乗り切りましたし、国中がこぞって取り組んでいるＤＸの関係では、オンライン申請できる手続の範囲を着実に拡大させています。このような全国共通とも言える取組みに注力しながら、小山市独自の事業を進めてきました。

残り1年を切った任期を有意義なものにするため、この３年間で取り組んできた小山市独自の事業を振り返り、これから取り組むべきことを再確認したいと思います。

優先して取り組んできた事業

市長に就任してびっくりしたことは、他の自治体では当たり前に行われていることでも小山ではまともに行われていないことが数々あったことです。約15年毎に必要とされる防水工事等のメンテナンス工事が20年間市内すべての小中学校で行われていなかったため、各学校の校舎や体育館は何か所も雨が漏る状態でした。また穴だらけの道路や除草・剪定の予算も十分確保されず公園や街路樹は管理不十分でした。こんなことを続けさせる訳には行きませんから、これらの修繕や管理のために大幅なテコ入れをした結果、令和５年度の関係予算は令和２年度の約2.7倍になりました。

前市長時代からの重点事業の継続

新市庁舎の竣工と移転、市立体育館の完成・オープン、城山公園・間々田八幡公園の整備、豊田北小と豊田南小を統合した豊田小学校の新築・開校、大谷地区中心施設新築の着工、粟宮新都心第一土地区画整理事業の継続、城山町3丁目第２地区市街地再開発事業の推進、工業団地造成（小山東部第２、小山テクノパーク南部）と分譲、豊穂川・杣井木川の排水強化対策（杣井木川の防災集団移転方針の決定）など前市長時代から計画されていた重点事業を継続して実施しました。

新庁舎外構については、移転完了後に別館・旧庁舎の解体、南側駐車場の整備までが終わり、現在西側駐車場とエレベーターの整備が進行中で今年度中にはすべて完了する予定です。

公約① 速やかな財政再建

財政調整基金が令和２年度の就任時には１０億７０００万円しかなく、万一の備えが不十分だった財政を立て直すため、毎年積み増しをして令和４年度末には３０億５０００万円として、令和11年度の目標額を7年前倒しで達成できました。これには令和４年度には前年度に比べ約３倍の３２億円超となったふるさと納税の好調さ（県内1位、全国４８位）にも助けられました。

公約② 市民が求める政策の実現

十分な予算がついていなかった学校校舎・道路・公園等の修繕・管理等の予算を充実させ市民の要望に応えるとともに、こども医療費も１８歳まで無償化を実現しました。おーバス料金８０歳以上の無料化、重度心身障害者の医療費助成の現物給付化、帯状疱疹ワクチン接種費用助成等、長らく市民から求められてきた政策も早期実施に向け検討中です。また進学校に通学するため市外に通う高校生が多い現状を少しでも変えるため、栃木県に対して市内に中高一貫校の設置を要望していたところ、先般小山高校が中等教育学校になる方針を県が決定し、令和１０年度から小山高校で中学生の募集が開始される予定です。

公約③ 田園環境都市おやまのまちづくり

小山市の田園環境と都市環境のバランスの良さを象徴するコウノトリが渡良瀬遊水地で4年連続繁殖しました。今年巣立ったヒナは、メスの小白（コハク）と千歳（チトセ）です。

都市と田園のバランスの良さを保ちながら、私たちにとって大切なものを守り、住みやすい、住み続けたいまちづくりを進めるため、３０年後の市政施行１００周年の小山のあるべき姿を示す田園環境都市おやまビジョンを令和６年度の完成を目指し策定中です。

また、国の２０５０年度までに２５％の農地を有機農業に転換する方針に呼応し昨年度には県内初のオーガニックビレッジ宣言を行いましたが、この１０月１日にはゼロカーボンシティ＆ネイチャーポジティブ宣言を行って脱炭素と生物多様性向上を推進します。

公約④ 徹底した市民との対話と連携

市民の声を市政に反映するための市民と市長が対話する市民フォーラムを令和３年３月以降毎年数回実施しています。

市民参加型による駅周辺のまちづくりプラン（PLAN OYAMA）も先ほど完成しました。

また、田園環境都市おやまビジョン策定のため住民からの聴き取りを行う風土性調査やワークショップを実施し、さらに各分野にわたって３０年後の小山についての意見交換を行うためおやま市民ビジョン会議を設置しました。

コロナが落ち着き再開した事業

今年の５月で２類から５類に引き下げられてようやくコロナが落ち着き、以前と同じように行事、イベントが行われるようになりました。7月２９、３０日は４年ぶりの「おやまサマーフェスティバル２０２３」で、初日に「盆踊りマルシェ」、２日目に「第７１回小山の花火」が行われました。どちらも晴天に恵まれ、コロナ前以上の人出となり大変好評でした。そして、野木町、結城市と合同で開催してきた中学生の広島平和記念式典への派遣も、今年は８月５～７日で４年ぶりに実施し、私も同行しました。

これから取り組むべき事業

今後具体化していく事業として現在進行中のものは、候補地が内定した間々田じゃがまいた伝承館の整備（建て替えが必要となる博物館との複合施設として検討中）、サッカー場の新設、弓道場の移転、老朽化した文化センターの建て替え、間々田北保育所と網戸保育所の統合・建て替えがありますし、テナントが十分確保できず長年営業不振が続いて、毎年市から助成を続けているロブレ問題の解決について目途をつけていくための検討作業も始めています。

公共施設マネジメントを着実に推進していくためには、公共施設の統合や学校の適正配置は不可欠ですが、そのためにはスクールバスも含めた公共交通を充実させなければなりません。

また、長年職員削減が続けられたために、小山市は全国の同規模の市と比較すると１００名近く職員が不足しており、例えば道路補修のために予算を増額しようとしても担当課職員が足りず対応できないようなことも生じています。そして災害時には市役所職員が足りなければ避難所の開設や管理も滞ってしまいますので、適正な職員数の確保は急務であり、そのための職員採用方針を検討中です。

以上、この３年間の取組みと今後取り組むべきことを概観しました。令和６年は小山市の市政施行７０周年を迎えます。市民の皆様と共に３０年後の市政施行１００周年時の小山市のビジョンをしっかり描き、小山市を県下第２の都市に相応しいまちにして行くため、残りの任期を全うして参ります。

あさの正富後援会会長からのお願い

当後援会として、現在、各地区、職場、団体毎に市長と意見交換する懇談会等の開催を準備中です。これまで３年間の市政運営や今後の取り組みなど、皆様のご意見をうかがって、当後援会としてのこれからの活動に生かしていきたいと考えております。懇談会等の日程が決まったものから順次ホームページでお知らせしますので、是非多くの皆様にご参加賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

市長としての任期も残り１年を切りました。引き続き皆様の熱いご支援を賜りたく重ねてお願い申し上げます。

あさの正富後援会会長　楠 通昭

あさの正富後援会の ホームページが更新されております。

浅野市長ご自身による日頃の市政活動での様子や懇談会の日程などご覧いただけます。 下のURL、または、スマホの方はこの QR コードからお入りください。

あさの正富後援会事務所　https://www.asano-masatomi-supporters.com
〒323-0034 栃木県小山市神鳥谷1-6-19 TEL:0285-25-6577 FAX:0285-25-6627 メール：masatomi2020@gmail.com